

2014.4.13 「本当に、この人は神の子だった」 マルコによる福音書15:29～41

十字架刑は、ローマ帝国の処刑法でも政治的反逆罪に処せられた者を見せしめにするための刑としてあった。長時間にわたって苦しめていくのが十字架刑である。その十字架刑でイエスが非常に苦しめられた。イエスの最後の言葉はそのことを表しているように思う。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」・・・ただ、これがあの神の子としてのイエスの最後の言葉というには、非常にみじめで、情けない気がする。何故、最後にこういう哀れな姿で終わるのか。しかし、そのイエスの姿を見て一人の百人隊長が「本当に、この人は神の子だった」と言っている。さっきまでイエスを鞭で打ち、唾を吐き掛け、十字架を担がせ、衣服をくじで分け合う。そして十字架に磔にした兵士が、目の前のイエスの姿を見てその告白があった。この出来事をどう受け取ったらよいのだろうか。

3年前の3月11日、東日本大震災が起きた。「どうしてですか」「どうしてこんなむごいことが」という思いは尽きない。そんな状況の中で、今朝の聖書の言葉が慰めとして思い浮かんだという。震災の折に、多くの人々の心にまず浮かんだのが、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という言葉だったと。その時、イエス様のあの叫びが慰めになったと聞く。

この世において、「どうしてですか」と言うことは起きる。「どうしてですか神様」ということは、どんなに善良な人であっても、そうでなくとも起きる。イエスのあの十字架での姿は、そんなこの世に人として歩まれた決定的な証拠といえる。イエスは、神の子でありながら、最後まで人として歩まれ、十字架上で苦しんで息を引き取っていく。その姿に、「本当に、この人は神の子だった」と、言わしめたのではないか。神の究極の愛がそこにある。

この世には、「どうしてですか」ということは起こる。辛いことだが。しかし、どのような時でもイエスが共に居られることを覚えて、慰めを受け、励ましを受け、勇気を受け、希望を持って歩ませて頂きたい。主イエスの苦難の十字架を覚えて。(神谷)